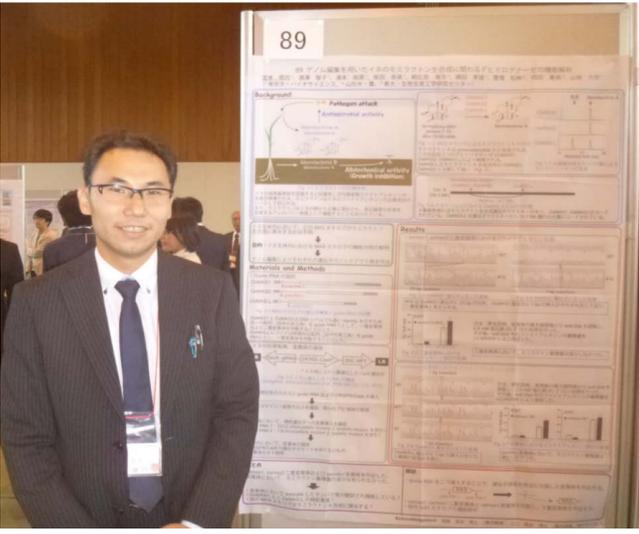


バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究者および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	植物化学調節学会 第51回大会（高知大学物部キャンパス）
演題名	ゲノム編集を用いたイネのモミラクトン生合成に関わるデヒドロゲナーゼの機能解析
発表者	○ <u>宮本皓司</u> 、酒澤智子、湯本絵美、柴田恭美、朝比奈雅志、横田孝雄、豊増知伸、岡田憲典、 <u>山根久和</u> （植物化学研究室）
内容	<p>植物は病原菌の感染に応答して抗菌性二次代謝物質であるファイトアレキシンを生産する。イネのファイトアレキシンの主要成分としてモミラクトンが知られている。モミラクトンAの生合成の最終段階はデヒドロゲナーゼであるMASタンパク質により触媒されることが知られている。イネゲノムには少なくともMASホモログが3種類存在し、それぞれがモミラクトンA合成活性を試験管内で示すことが知られている。本発表では、イネ生体内におけるMASホモログの機能を明らかにすることを目的とし、それぞれの遺伝子の変異株をゲノム編集により、作出したことを報告した。</p> <p>本研究は私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「植物オキシリピンの生理機能の解明とその応用」による支援を受けて行った</p>
関連画像	 <p>写真：宮本博士研究員とポスター</p>